



①各世代の技術者がそろろう  
②展示会に積極出展  
③赤外線カメラユニット  
④本社社屋外観

いけだせいきこうぎょうしょ  
**株式会社 池田製機工業所**

短納期 小ロットOK 試作OK 連携力



代表取締役社長  
いけだ としゆき  
**池田 敏幸**さん

これからの100年を思い描いて  
ものづくりに取り組みます

大正4年の創業から、日本のものづくりを支える一企業として、金属加工、機械製造業務にまい進してきました。お客様の信頼に応えるため、従来と変わらず一つひとつの案件を大切に、ご要望にかなうものづくりの実現に取り組んで参ります。100年を超えた鉄工所が、これからの100年を思い描いてものづくりに取り組んでいきます。楽しみです。

■主な事業内容  
自動化装置の金属部品製造、組立・調整作業

■主な取引先(納入先)  
自動化装置メーカーなど

住 所 / 〒570-0037  
大阪府守口市大枝北町12-15  
TEL / 06-6991-0401  
FAX / 06-6997-0962  
創 業 / 大正 4年3月  
設 立 / 昭和22年9月  
資本金 / 1,000万円  
従業員 / 27名

<http://www.ikedaseiki.co.jp/>

## 変革に挑む老舗鉄工所 単品オーダーメイドの強み追求

### 事業内容と沿革

#### 金属部品加工と設備組立の2本柱

大正4年に現在の地で創業し、102年目を迎えた。金属素材の部品加工と各種製造機器の組立・調整作業を2本柱とする。4世代にわたり、ものづくり一筋に生きてきた。主に切削加工を行うが、それだけにとどまらずさまざまな加工、焼き入れ後の研磨仕上げや溶接構造の部品製造も行う。鉄、ステンレス、アルミ、銅などの金属や樹脂を加工する。

電子部品をはじめとする幅広い分野の生産設備の組立も行い、部品加工からの一貫体制で受注生産できる。

大手メーカーからの注文に対応する一方、“町の便利な鉄工所”的な存在を心がけ、部品1個の注文にもスピーディーに対応する。手間がかかる加工や他社にはできないような難しい注文にも、長年の経験に裏打ちされた技術力を生かしてこなすことができる。社員は60代以上のベテランと中堅、若手が混在し、世代を超えたチーム体制で難題にも挑み、日々の仕事の中で技術継承を進めている。

### 強み

#### 必要なモノを1個から 短時間で提供

必要なモノを必要なときに必要な数量を提供できる多品種少量生産体制が強み。熟練した職人たちが多様な加工技術を駆使して、高精度、高品質の金属部品を短時間で仕上げられる。「こんな部品ができないか」、「難加工を短納期で」といった顧客のあらゆる要望に応えてきた実績が、新たな注文に結びつく。「『池田製機工業所』に相談すれば何とかできる」という評価が定着してきた。

平成28年には、元JAXA宇宙科学研究所助教で関西学院大学の松浦周二教授が同社を訪れ、宇宙赤外線背景放射を観測するための赤外線カメラのユニット部を製作してほしいという依頼があった。同カメラは宇宙ロケットに搭載するもので、特殊な仕様が求められる。同社でもまったく経験のないことだったが、果敢に挑戦し、現在試作を重ねている。このケースに限らず、寄せられる注文の一つひとつが同社にとっては新たな挑戦であり、加工、試作ノウハウの蓄積につながっている。

### 取り組み

#### 次の100年に向け、 発信力を強化

同社は平成28年、営業、広報、システム機能を強化するため6名の社員を採用した。創業から100年を経過し、次の100年のあり方を思い描く中で、池田敏幸社長の胸には「これまでと同じことを続けては生き残れない」という思いがあった。

花屋からの転職で入社した松林智一システム開発室長は広報業務も担当する。松林室長はまず自社の強みを知るために、現場の社員と対話を重ねた。無口な職人たちとも根気強くコミュニケーションを取ることに努めた結果、徐々に社内の雰囲気も明るくなってきた。松林室長は「単品加工の世界なら、最新のNC(数値制御)工作機械に汎用工作機械で勝つ場面がたくさんあるのではないかと」と技術力に驚くとともに「この職人さんたちの技術があれば、勝負できるシーンがまだまだ作れる」と確信する。広報担当として自社のポテンシャルを発信するため、展示会に出て「単品からのオーダーメイド」をアピールし、さらにホームページも刷新した。

### 今後の展開

#### 内部を固め、 外には積極営業

積極姿勢に転換した池田社長の口癖は「楽しみやねん」。これからの100年に向けて会社を劇的に変化させようと苦闘する中で、手ごたえを感じているからだ。内部の体制を固め、外には営業に打って出る。内部は工場向上会議を設立し、ボトムアップ型のチーム作りを行う。CAD/CAMのさらなる活用など生産管理体制の充実につながるIT化を進め、産業界に普及しつつあるIoT(モノのインターネット)にも対応していく考えだ。これまでの強みである職人の技術力をさらに強化し、ベテランの技能を継承することで、中堅、若手を育てていく。

社員にも意識転換を求める。自分たちの強みは何かを把握し、それを外に向かって発信することを追求するため、工場見学を積極的に受け入れることを決めた。外部の顧客らに製造現場に来てもらい、対話する場を設け、社員のだれもが自社のものづくり力について自信をもってアピールできるようにする。